

年表上部の画像

・男体山山頂で出土した遺物

男体山の山頂では、刀剣や土器、鏡など多くの種類の遺物が発見されている。1877 年、科学者エドワード・S・モース(1838-1925) が軟体動物を探しに中禅寺湖を訪れた。数時間かけても成功せず、男体山に登り、山頂の祠で硬貨、刀の刃、槍の穂先、髪の毛の束などを発見した。

・日光三権現 (1313 年)

ここでは、日光の三大山神（男体山・女峰山・太郎山）を神道の神に見立てている。権現とは、仏教の神の化身である。この三像は、山・仏性・神道性の三位一体であると考えられている。輪王寺の三仏堂にも同じ姿で祀られている。

	左	中央	右
山	太郎山	女峰山	男体山
神	味耜高彥根命	田心姫命	大己貴命
仏	馬頭観音	阿弥陀如来	千手観音

・華厳の滝の鳥たち

イワツバメは、古くから夏の間、華厳の滝周辺で見られるようになりました。この画像は、1837 年に発行された「日光山紙」に掲載されたものです。地形、地理、歴史、祭りなどの話題に加え、「日光八景」にまつわる詩や鳥や草木のカラー図版などが掲載されている。

・戦場ヶ原の風景

この戦場ヶ原（旧称：赤沼ヶ原）の水墨画も 1837 年の日光山紙のものである。中央下の二人の小人が中禅寺湖北の大湿原を横断している。左奥に日光白根山を遠望しながら、湯本温泉方面に向かって歩いている。

・華厳の滝

江戸時代末期の姿をした滝。大谷川は中禅寺湖から東に流れ出て、すぐに華厳の滝で 97m の落差をつけています。この滝は、8 世紀に上人がこの地を探検した際に発見したと考えられています。溪谷にある五つの滝のうちの一つで、歴史上のお釈迦様の教えの五部にそれぞれ名前が付けられている。

・下野国中禅寺湖

この中禅寺湖図は、歌川広重（1797-1858）が描いた「諸国名所百景」の中の一枚です。広重は浮世絵師として活躍し、名所・風景画の収集で知られている。旧下野の地は現在の栃木県。男体山へと続く道を歩いているように見える。水面には二荒山神社中宮祠の鳥居が、対岸には歌ヶ浜海水浴場がある。